淡海の城100

かつて1300を超える城郭が築かれた滋賀県のお城・城跡から100城をご紹介

彦根城（国宝天守）

安土城（大手道）

坂本城（湖中の石垣）

大溝城（天守台石垣）

長浜城（模擬天守）

水口岡山城（バルーン城）

大津市 Ac/Ad

京に接する当地域は、比叡山延暦寺に代表される寺院系領主権力が強く及び、比叡山中に多数見られる城郭・砦遺構は、峠道を押さえる上で重要である。これらは、浅井・朝倉と織田の湖西覇権争いの舞台ともなり、比叡山焼き討ち後には坂本城・大津城・膳所城が湖岸に築かれ、常に京・大坂を意識した城であった。

大津市	宇佐山城	うさやまじょう	志賀山城とも。志賀の陣に際し、対浅井・朝倉で信長の命により森可成が築城。石垣が良好に残る。
	大津城	おおつじょう	秀吉の命により、湖上交通の要として築城。関ヶ原の合戦では西軍の大軍を相手に籠城戦が行われた。石垣・礎石が検出。
	坂本城	さかもとじょう	元亀2(1571)年に明智光秀が織田信長の命を受けて築城した天守を持つ水城。「安土に次いで華麗な城」と記録される。石垣や礎石建物が発掘されている。
	膳所城(石鹿城)	ぜぜじょう（せきろくじょう）	家康が築城した水城。「瀬田の唐橋唐金擬宝珠、水に映るは膳所の城」と華麗さをうたわれた。周辺に城門等が移築されている。
	ダンダ坊遺跡	だんだぼういせき	比良山中の城郭。山岳寺院の一部が城塞化したか。庭園の遺構等が残る。
	壺笠山城	つぼかさやまじょう	志賀の陣で浅井・朝倉軍が陣を取り、信長軍と戦った城郭。古墳に築城しており、大手沿いに郭群が残る。

彦根市・愛荘町・甲良町・多賀町 Bc/Cb/Cc

この地域は江南を支配する六角氏支配圏の北限として、六角氏の被官となった在地土豪の城郭が多く存在し、京極氏・浅井氏・六角氏の抗争の舞台となる。佐和山城はその抗争の争点であり、争奪戦が繰り返されて城主がたびたび交替している。近世に入るとほとんどは彦根藩領となり、井伊家の支配下におかれた。

彦根市	佐和山城	さわやまじょう	六角氏領有後、磯野氏が入城。以後江北、江南の境目の城として堀秀政、堀尾吉晴、石田三成、井伊直政が城主に。16世紀末に大規模に改造される。
	彦根城 特	ひこねじょう	金亀城とも。慶長9(1604)年、西国への防御拠点として、幕府の命により天下普請として井伊直継が築城を始め、佐和山より居城を移す。天守は大津城天守を移築。国宝。
	肥田城	ひだじょう	16世紀初めに高野瀬隆重築城。六角氏と浅井氏の攻防戦「肥田城水攻め」の舞台。後に信長により蜂屋頼隆が入る。
	山崎城 市	やまざきじょう	山崎山城とも。山崎片家が信長を接待した。
愛荘町	金剛輪寺城	こんごうりんじじょう	金剛輪寺境内に城郭遺構が残る。
	目加田城 町	めかたじょう	六角氏の配下である目加田氏の居館。
甲良町	勝楽寺城	しょうらくじじょう	京極道誉創建。信長の攻撃により廃城。
多賀町	敏満寺城	びんまんじじょう	敏満寺が浅井長政や織田信長に対して造った城。

甲賀市・湖南市 Bd/Cd

滋賀県内でも屈指の城館跡の数を誇る地域である。特に甲賀衆と呼ばれる地侍たちが築いた城館は、一辺50m程度の土塁で囲まれた「単郭方形四方土塁型」と言われる小規模な構造が特徴である。これらの城館群は甲賀郡中惣との関連性が指摘されている。また、これらの小規模な城館のほかにも、豊臣政権による巨大城郭や徳川将軍の宿館としての城跡もあり、多様性に富む。

甲賀市	上野城 市	うえのじょう	単郭方形の主郭と付随する複数の曲輪を配置した丘陵上の城館。16世紀後半～17世紀前半の遺物が出土。
	小川城(城山城) 県	おがわじょう（しろやまじょう）	礎石建物を有する土塁囲みの主郭を中心とする山城。一般的な甲賀の城館とは異なる。戦国時代末期に多羅尾氏によって改修されたとみられる。登城路の麓に館城跡、街道を隔てた丘陵にも城跡が残る。
	黒川氏城	くろかわしじょう	甲賀市で2番目の大きさの城郭。黒川氏が築城したと伝わる。主郭に石垣、雁木が残り、近世初頭に築城された可能性もある。
	佐治城 市	さじじょう	野洲川方面を視野に入れる丘陵上に立地する甲賀では珍しい群郭形式の城跡。甲賀郡中惣との関連性を考える上で重要。
	寺前城・村雨城 国	じぜんじょう・むらさめじょう	単郭方形を基本とする同規模の城館が近接する二城並列型の城館。土塁や堀切などが良好に残る。
	下山城	しもやまじょう	丘陵上の単郭方形四方土塁型の典型的な甲賀の城館。土塁や堀切がよく残る。伴氏の城と伝わる。
	新宮城・新宮支城 国	しんぐうじょう・しんぐうしじょう	単郭方形を基本とする同規模の城館が近接する二城並列型の城館。新宮支城に残る土塁は高さ約10m。
	滝川城 市	たきがわじょう	織田氏の重臣、滝川一益ゆかりの城と伝わる。丘陵上に立地する単郭方形四方土塁の城跡。
	竹中城 国	たけなかじょう	杣川の河岸段丘上に立地する典型的な単郭方形の城館。土塁と空堀が残る。
	多羅尾代官陣屋 市	たらおだいかんじんや	江戸時代に幕府直轄地の支配を行う代官を世襲した多羅尾氏の居館兼代官所跡。石垣や庭園、背後の山上には堀切や曲輪跡が残る。4/1～5/31、10/1～11/30のみ一般公開。
	土山城	つちやまじょう	土塁囲みの主郭に馬出しが取りつく。甲賀では珍しい。小牧・長久手の戦いの際に改修された可能性がある。
	水口岡山城 国	みなくちおかやまじょう	甲賀支配の拠点および東国制覇の足掛かりを目的として、秀吉の命により天正13(1585)年に中村一氏が築いた巨大城郭。
	水口城 県	みなくちじょう	碧水城とも。徳川将軍の上洛御殿の一つ。石垣・堀が残る。模擬櫓が資料館として利用されている。
	和田城 市	わだじょう	四方に土塁がめぐる主郭をもつ丘陵上の城館。和田谷に所在する7城の最奥部に立地する中核的存在。
甲賀市	三雲城 県	みくもじょう	吉永城とも。六角氏の家臣三雲氏の山城。六角氏の亡命拠点として利用される。石垣・土塁が残る。

長浜市・米原市 Ba/Bb/Cb

鎌倉時代より京極氏は上平寺等を本拠に北近江に勢力をふるったが、戦国時代にはその被官であった浅井氏が主家をしのぐ戦国大名として成長した。浅井氏は小谷城に拠り北近江に覇を唱えたが、元亀元(1570)年に朝倉氏と結んで織田・徳川連合軍と戦い(姉川合戦)、その3年後に滅亡した。こうした歴史を持つため、京極・浅井家臣となる在地土豪が多く存在し、その支配地に多くの城館を築いた。このほか、京極氏対浅井氏、浅井氏対織田氏の抗争にかかわる陣城が多く認められる。余呉湖周辺は、天正11(1583)年、羽柴秀吉が柴田勝家を破った賤ヶ岳の合戦の舞台となっており、賤ヶ岳合戦時の陣城が多数残されている。また、江北十ヶ寺に代表される城塞化した真宗寺院の存在も注目される。

長浜市	大岩山砦	おおいわやまとりで	賤ヶ岳合戦で羽柴軍の中川清秀布陣。柴田軍佐久間盛政の急襲により落城。これが合戦の引き金となった。
	小谷城(大嶽・郡上・焼尾等の諸城砦を含む) 国	おだにじょう	北近江の戦国大名浅井氏三代の居城。京極氏の根本被官であった亮政により築かれ、久政、長政により整備された。姉川合戦後の天正元(1573)年、織田信長の攻撃により落城後、羽柴秀吉が入城するも天正5年頃には長浜築城に伴い廃城。多くの遺構が良好に残存。
	行市山砦	ぎょういちやまとりで	賤ヶ岳合戦で柴田軍の佐久間盛政布陣。
	玄蕃尾城 国	げんばおじょう	内中尾山城とも。賤ヶ岳合戦で柴田軍本陣。櫓台(本陣)あり。城の半分は福井県敦賀市にかかる。
	賤ヶ岳砦	しずがたけとりで	賤ヶ岳合戦で羽柴軍の桑山修理等布陣。砦周辺に進出して来た柴田軍に対抗。
	下坂氏館 国	しもさかしやかた	京極・浅井家臣で下坂庄地頭の下坂氏屋敷。堀・土塁が残る。
	神明山砦	しんみょうやまとりで	賤ヶ岳合戦で羽柴軍の蜂須賀正勝布陣。
	田上山城	たがみやまじょう	賤ヶ岳合戦で羽柴方陣城。羽柴秀長の本陣が置かれた。
	田部山城	たべやまじょう	元亀年間、朝倉氏または浅井氏の家臣田部氏が築城。小谷城攻防戦では朝倉勢が入る。
	天神山砦	てんじんやまとりで	賤ヶ岳合戦で羽柴方陣城。最前線であったが、柴田方に近接しすぎていたため、初期で放棄された。
	堂木山砦	どうぎやまとりで	賤ヶ岳合戦で羽柴方陣城。東に位置する東野山城と連動して北国街道を封鎖した。
	虎御前山城 市	とらごぜやまじょう	信長の小谷城攻撃の前線基地。尾根上に点在した古墳を削り、堅固な砦や陣を築いた。
	中島城	なかじまじょう	浅井家臣中島宗左衛門が守備。小谷城攻防戦に際して、朝倉方が築いたか。
	長浜城 市	ながはまじょう	南北朝期に京極氏が築き今浜氏・上坂氏らが守備。天正2(1574)年に信長の命を受け、湖北および湖上交通の押さえとして羽柴秀吉が再築城して以降、柴田勝豊・山内一豊・内藤信成と城主が変遷し、元和元(1615)年、廃城。
	東野山城 市	ひがしのやまじょう	左称山砦とも。賤ヶ岳合戦で羽柴軍の最前線砦として堀秀政布陣。
	別所山砦 市	べっしょやまとりで	前田利家親子が築城。賤ヶ岳合戦で柴田方陣城。
	三田村氏館 国	みたむらしやかた	京極、浅井に仕えた三田村氏の屋敷。姉川の合戦時には朝倉景建の本陣が置かれた。現在は伝正寺地。土塁・堀が残る。
	山本山城	やまもとやまじょう	戦国期には阿閉・浅見氏が拠る。湖上交通を押さえるための小谷城の支城。
	丁野山城	ようのやまじょう	小谷城攻防戦に際して、小谷城防御のため、浅井氏を支援する朝倉氏が築城。
米原市	大原氏館	おおはらしやかた	大原中村城とも。佐々木大原氏の居館跡。土塁・堀等が残る。
	鎌刃城 国	かまはじょう	江北・江南の境目の城だったが、のちに堀氏の居城として北近江支配の拠点となる。石垣・竪堀群・堀切等が残る。
	上平寺城 国	じょうへいじじょう	刈安尾城とも。京極氏の居城。大永3(1523)年に国人一揆により守護居館の詰めの城としての機能が終わり、以後江濃国境の警備の城としての役割を担う。元亀元年に浅井・朝倉軍によって改修される。
	長比城	たけくらべじょう	野瀬山城とも。信長の近江侵攻に備え、元亀元(1570)年に浅井長政が朝倉氏の協力を得て築城。
	八講師城	はっこうしじょう	多賀高忠・沢田民部大輔等によって築かれたとされる。中心部の曲輪には礎石・石積み等が残る。
	太尾山城 市	ふとおやまじょう	江北江南係争の城。浅井長政の頃は中島直頼が在城。北城と南城で構成され、近世軍学にいう別城一郭の構造。
	弥高寺遺跡 国	やたかじいせき	戦国期に京極氏が山城化。浅井・朝倉軍により上平寺城と共に改修される。土塁・竪堀群・堀切等が残る。
	横山城	よこやまじょう	京極氏の支城として築かれ、のちに浅井長政によって本格的に改修される。姉川合戦後、信長の命により、小谷城攻めの拠点として木下秀吉入城。

近江八幡市・東近江市・日野町・竜王町 Bc/Cc

中世を通じ近江を支配した佐々木六角氏の居城観音寺城の興亡と共にこの地域の城郭の歴史は展開している。将軍に頼られるほどの勢力を誇った六角氏は家臣団の内乱で弱体化し、ついに信長の侵攻と共に滅びる。信長の近江侵攻に敵対する動きが見られるのが特徴である。安土城築城を合図に近世の扉が開かれ、関ヶ原合戦以後は彦根藩井伊家の影響を大きく受ける。

近江八幡市	安土城 特	あづちじょう	信長の天下統一にかかる拠点。近世城郭の原点。本能寺の変の後、天主等が焼失。
	観音寺城 国	かんのんじじょう	繖山山上に広がる近江守護六角氏居城。中世山城として全国屈指の規模を誇る。信長侵攻時落城。
	北之庄城	きたのしょうじょう	六角氏関連の城か。八幡山城に先行する中世城郭で残存良好。
	水茎岡山城	すいけいおかやまじょう	岡山城、水茎館とも。九里氏居城か。湖中の浮き城。京を追われた室町幕府11代将軍足利義澄を迎えた際に大規模な改造がされたか。同12代将軍足利義晴誕生地。
	長光寺城	ちょうこうじじょう	瓶割山城とも。六角氏の支城だったが、信長の攻撃により落城し、柴田勝家が城主となる。勝家の瓶割で有名。
	八幡山城	はちまんやまじょう	八幡城とも。秀吉により、羽柴秀次が城主となり近江支配の拠点として築城。鶴翼山山頂山麓に郭があり、山麓は居館跡。八幡堀と、城下町から続く在郷町の町並みが残る。
東近江市	青山城	あおやまじょう	六角氏配下青山氏の居城。
	伊庭御殿 国	いばごてん	江戸期将軍上洛用宿泊所。南北約90m、東西約35mの単郭で、石垣が残る。
	井元城	いもとじょう	鯰江城に籠もった六角氏と戦うために織田勢が築いた付城か。
	大森城	おおもりじょう	大森布施氏居城か。
	小脇館	おわきやかた	早期佐々木氏の本拠地。
	後藤氏館 県	ごとうしやかた	六角氏の重臣後藤氏の本城。後藤騒動の主人公の居館。
	佐生城	さそじょう	佐生山城・佐生日吉城とも。観音寺城と興亡を共にした六角氏の重臣後藤但馬守の居城。
	高野城	たかのじょう	六角氏被官九里氏関連か。
	鯰江城	なまずえじょう	六角氏の家臣鯰江氏の居城。信長の近江侵攻に際し、観音寺城を捨て六角義治が籠城。近江守護六角氏最後の城。
	百済寺城 国	ひゃくさいじじょう	城塞化した寺院。鯰江籠城戦で信長により焼き討ち。
	布施山城	ふせやまじょう	布施城とも。玉諸山山頂。六角氏の重臣布施氏の居城。後藤騒動の舞台。
	箕作城	みつくりじょう	箕作山城・清水山城とも。信長侵攻時の戦場の舞台。この城の落城を機に六角氏は滅亡に向かう。
	和田山城	わだやまじょう	観音寺城の支城。
日野町	音羽城	おとわじょう	蒲生館、智関城とも。中野城以前の蒲生氏の居城。
	鎌掛城	かいがけじょう	音羽城の支城とされる。城山一帯に良好な遺構が残る。
	佐久良城	さくらじょう	小倉氏の居城。大規模な堀切や土塁が残る。
	鳥居平城	とりいひらじょう	小倉氏に関わる城とされる。20以上の曲輪や堀切が残る。
	中野城	なかのじょう	日野城とも。音羽城廃城以降の蒲生氏の居城。本能寺の変の際、信長の妻子を匿ったとされる。
竜王町	星ヶ崎城	ほしがさきじょう	佐々木氏旗頭鏡氏の居城。佐々木氏の本城である観音寺城の支城として築城されたか。

草津市・守山市・栗東市・野洲市 Ac/Bc

湖南地域は、穀倉地帯であると共に、陸上・水上交通の要衝の地であり、惣村・寺内町が古くから発展している。信長に対抗した一向宗徒が立て籠もった三宅城・金ヶ森城は寺内町を城塞化したものである。平野部の環濠集落・方形居館が基本であり、六角氏の征伐の際、陣所となったものも多いが、平野部ゆえに、開発の波に飲まれたものが多い。

草津市	青地城	あおじじょう	鎌倉時代から室町時代にかけて、この地域を治めた青地氏の居城。土塁と城池が残る。
守山市	金ヶ森城	かねがもりじょう	浄土真宗の寺内町が対信長で城塞化。
	三宅城(蓮生寺) 市	みやけじょう（れんしょうじ）	対信長で一向宗徒が籠城。土塁が残る。
	矢島御所	やじまごしょ	永禄8～9(1565～1566)年、室町幕府最後の将軍足利義昭の居所。
栗東市	多喜山城	たきやまじょう	日向山城とも。東海道、中山道を見下ろす要衝にある。枡形虎口・石垣が残る。
	鈎陣所 市	まがりじんしょ	六角氏征伐時、室町幕府9代将軍足利義尚の陣所と伝えられる。永正寺周辺に土塁・堀が残る。
野洲市	永原城	ながはらじょう	中世永原氏居城で、平時の居館。
	小堤城山城	こづつみしろやまじょう	六角氏の家臣として活躍した永原氏の居城で、湖南地域最大規模の山城。安土城に先行する古い石垣が残る。
	永原御殿 国	ながはらごてん	徳川将軍上洛の際の宿所。本丸、二の丸、三の丸からなり、本丸には土塁と堀が残る。

高島市 Ab/Bb

高島七頭惣領家居城である清水山城と山麓城館群は、佐々木氏支配当時の特徴的な城郭である。浅井・朝倉と織田の攻防、さらには天台系寺院と在地領主との領地争いに伴う山岳部の砦群も特徴的である。また、朽木氏関連の居館や織田の近江支配に重要な大溝城をはじめ、平野部の城館も多数知られているが、現況を留めるものは数少ない。

高島市	伊井城	いいじょう	日置前城・酒波城とも。郭・竪堀等が残る。
	岩神館	いわがみやかた	室町幕府12・13代将軍が京の戦乱から逃れるために滞在した館。国指定名勝「旧秀隣寺庭園」は細川高国の作庭。
	打下城	うちおろしじょう	大溝古城とも。浅井から織田方に渡り、信長の陣所に。志賀の陣において、信長の高島攻略の拠点となる。土塁・畝堀等が残る。
	大溝城	おおみぞじょう	湖西支配や湖上交通の掌握のため、織田信長が甥の信澄に築かせた水城。後に部材は水口岡山城へ。天守台石垣が残る。
	朽木城 県	くつきじょう	朽木陣屋・朽木氏館とも。金ヶ崎の戦いで朝倉・浅井から撤退の際、信長の朽木越えを助けたとされる朽木氏の本城。朽木城の敷地に陣屋が重複して建てられる。堀・土塁の一部と石垣・井戸が残る。
	清水山城 国	しみずやまじょう	日高山城とも。高島七頭惣領家佐々木越中氏の居城。湖西最大の山城。礎石等が発掘される。
	田中城(上寺城)	たなかじょう（うえでらじょう）	高島七頭の一人、田中氏の城郭。「信長公記」にも登場する。明智光秀が籠城。
	田屋城	たやじょう	田屋氏の城郭。北陸道、海津の港を見下ろす。枡形虎口・土塁等が残る。
	西山城	にしやまじょう	朽木陣屋の詰城。土塁・虎口が残る。
	日爪城	ひづめじょう	日爪氏居城で、後に清水山城の出城として改修されたか。

会いに行ける ～近江を駆け抜けた戦国武将・姫たち～

六角定頼（近江国守護、観音寺城主）

きぬがさ街道沿い（東近江市）

明智光秀（坂本城主、多賀町出身？）

坂本城址公園（大津市）

織田信長（安土城主）

JR 安土駅前（近江八幡市）

豊臣秀吉（長浜城主）

豊公園（長浜市）

浅井長政・お市・茶々・初・江（小谷城主、浅井三姉妹）

浅井支所（長浜市）

JR河毛駅前、道の駅浅井三姉妹の郷にも浅井家の像あり

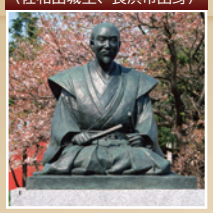
蒲生氏郷（日野町出身）

ひばり野公園（日野町）

藤堂高虎（甲良町出身）

高虎公園（甲良町）

石田三成（佐和山城主、長浜市出身）



石田会館（長浜市）

龍潭寺（彦根市）にも像あり。JR長浜駅前には秀吉と三成の出逢いの像（三献茶）あり

井伊直政（彦根藩初代）

JR 彦根駅前（彦根市）

加藤清正（賤ヶ岳七本槍の一人）

豊国神社（長浜市）

豊臣秀次（八幡山城主）

八幡公園（近江八幡市）

賤ヶ岳の戦い（1583）

緑の城が柴田方
赤の城が羽柴方

金ヶ崎の退き口（朽木越え）

織田vs朝倉・浅井の金ヶ崎の戦い（1570）における信長の撤退戦。しんがりを秀吉が務めたとされる。

美濃大返し

賤ヶ岳の戦いの際に、秀吉が1万5千人の大軍を引き連れ、大垣から木之本までの50km強を約5時間で駆け抜けたという行軍。

千草越え

金ヶ崎の撤退戦の際に、信長は浅井の勢力を避けて岐阜に帰還した。

かつて安土山の周りには内湖が広がっており、琵琶湖から直接船で城下町に入ることができた。明智光秀も坂本城から船で安土城に向かったという。

神君伊賀越え

本能寺の変（1582）の報を大坂の堺で受けた家康は、わずかな供回りを連れて三河に帰還した。井伊直政はこれに同行し、家康から孔雀の陣羽織を拝領したという。

※甲賀を抜けるルートは複数の説があります。

緑の城は一般的な甲賀衆の特徴を持つ城（単郭方形四方土塁型）

ニッポン城めぐり

全国3,000城をGPS情報を使ってめぐるスタンプラリー（位置ゲーム）無料アプリです。
滋賀県の城は80城設定されています。（当マップの100城の全てが同じ城ではありません）

二次元コードからダウンロード

凡例

- 新幹線
- JR線
- 私鉄線
- 高速道路
- 自動車専用道
- 有料道路
- 国道

★は（公社）びわこビジターズビューロー

特…国指定特別史跡　国…国指定史跡　県…県指定史跡　市…市指定史跡　町…町指定史跡

※城の場所と行軍ルートはおよその位置です。❶～⑲は裏面「近江戦国絵巻」の登場地です。※城の名称・読み方は複数説があります。

発行：滋賀県文化芸術振興課文化財活用係

戦国ワンダーランド 滋賀・びわ湖
SENGOKU WONDERLAND Shiga Biwako

滋賀県観光キャンペーン「戦国ワンダーランド滋賀・びわ湖」

上の巻 近江戦国絵巻

室町幕府の失墜 そして、信長の台頭

近江八幡市

一 近江戦国絵巻

京極氏と六角氏が応仁の乱で対決

戦国時代の始まりともされる「応仁の乱」は、近江を二分することになりました。北近江の守護だった京極持清（きょうごくもちきよ）は東軍に、南近江の守護だった六角高頼（ろっかくたかより）は西軍に属し、観音寺城❶（近江八幡市）などで対決。乱は京極氏が属す東軍の勝利に終わりましたが、京極氏の当主・持清の死去を機に、六角氏が勢力を盛り返すことになります。

近江八幡市・守山市

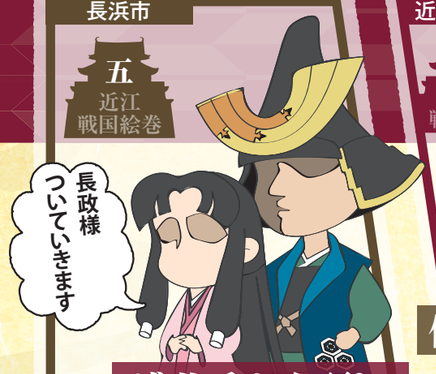
四 近江戦国絵巻

京を追われた将軍が次々と近江に逃亡

栗太郡鈎（栗東市）で病没した9代将軍・足利義尚の後も、室町将軍はたびたび近江へ滞在しています。11代・義澄（よしずみ）、12代・義晴（よしはる）、13代・義輝（よしてる）、15代・義昭（よしあき）は、後継者争いや内乱などの難を逃れて、京から逃亡。義晴が将軍御所（仮の幕府）を置いた桑実寺❺（くわのみでら／近江八幡市）、義昭が滞在した矢島❻（やじま／守山市）など、近江には将軍ゆかりの地が多くあります。

長浜市

五 近江戦国絵巻



浅井氏が台頭し、湖北を支配

信長が桶狭間（おけはざま）の戦いで勝利した同じ年、近江では浅井長政（ながまさ）が16歳で家督を継ぎました。浅井氏は京極氏の家臣から独立したのが成り立ちで、初代・亮政（すけまさ）は、琵琶湖と湖北3郡を一望できる小谷山（おだにやま／長浜市）に小谷城❼を築城しました。3代・長政（ながまさ）は後に、織田信長の妹・お市と政略結婚。長政とお市には、悲しい運命が待ち受けることになります。

近江八幡市

六 近江戦国絵巻

信長が近江で将軍を迎え、いざ上洛

桶狭間の戦いの後、美濃国（みののくに／岐阜県）へと進攻した織田信長はさらに軍を進め、六角氏を攻め落として南近江を制圧。後継者争いで身の危険を感じ、越前へと逃れていた足利義昭を桑実寺（近江八幡市）で迎え、坂本（大津市）を経由して京都へ向かいます。上洛を果たした信長は、足利義昭を室町幕府15代将軍にたてて、政治の実権を握りました。

長浜市

七 近江戦国絵巻

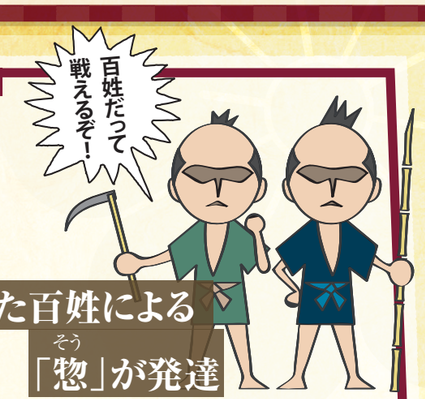
姉川（あねがわ）の戦い。お市の方の悲劇

織田氏と同盟関係にあった浅井氏は、越前（福井県）の朝倉氏とも、親密な関係を築いていました。信長と朝倉氏が対立したことで板挟みにあった浅井長政は、朝倉氏に加勢。湖北を東西に横切る姉川を挟んで、浅井・朝倉軍と、織田・徳川軍の合戦（姉川の戦い❽）へと発展しました。戦いは織田・徳川軍が勝利。1573年に浅井氏は滅亡し、長政の妻・お市は、兄である信長によって、夫を失うことになったのです。

年	出来事
1467年	一 応仁の乱起こる
1477年	二 応仁の乱終了
1487年	三 鈎の陣で室町幕府軍が六角氏の観音寺城を攻撃
1493年	明応の政変
1497年	蓮如が石山本願寺を創建する
	四
1543年	ポルトガル人が種子島に鉄砲を伝える
1549年	フランシスコ・ザビエルがキリスト教の布教を始める
1560年	五 桶狭間の戦いで織田信長が今川義元を破る
1568年	六 織田信長が足利義昭を将軍にたてて京にのぼる
1570年	七 姉川の戦い大坂で石山合戦
1571年	八 織田信長が延暦寺に攻め入る
	九
1573年	室町幕府が滅びる浅井家、朝倉家滅亡

大津市

二 近江戦国絵巻



力をつけた百姓による「惣（そう）」が発達

物資が行き交う交通の要衝であった近江の各地では百姓が力をつけ、「惣」と呼ばれる共同組織が発達。惣は時に自らの権利や支配地をめぐって、守護大名などと対立しました。1468年に堅田❷（かたた／大津市）で起きた「堅田大責（おおぜめ）」では、将軍・足利義政（よしまさ）が堅田を攻撃。家を焼かれた堅田の人々は琵琶湖の沖島❸（近江八幡市）へ避難しました。

栗東市

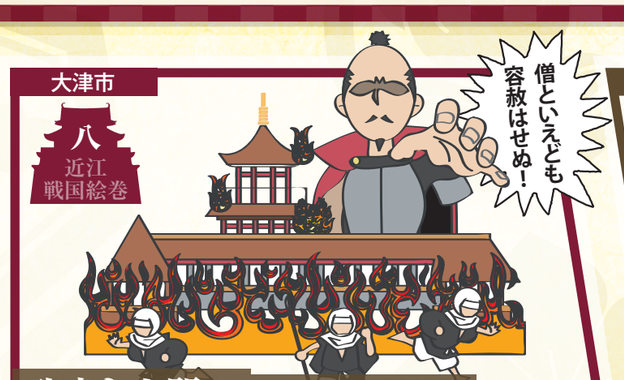
三 近江戦国絵巻

鈎（まがり）の陣で将軍が近江に滞在。室町幕府の中枢に

南近江の六角高頼は、幕府奉公衆が所有していた荘園を奪うなどして勢力を拡大。将軍・足利義尚（よしひさ）は六角氏討伐に動き、幕府軍は栗太郡鈎（栗東市）に陣を構えました（鈎の陣❹）。この出陣には、将軍直轄の奉公衆や幕府官僚の奉公人も伴っており、義尚が陣中で病没するまでの約1年半、実質的な幕府の中枢が近江にあったことになります。

大津市

八 近江戦国絵巻



武家と山門の対立が激化

天下統一をめざした信長は僧侶とも激しく争い、志賀の陣で浅井・朝倉氏に協力した比叡山延暦寺❾（ひえいざんえんりゃくじ／大津市）に攻め入りました。また、同様に大きな勢力だった本願寺の一向宗（いっこうしゅう／浄土真宗）門徒とも戦いを繰り返し、1570年に始まった石山合戦では、近江の一向宗門徒とも戦っています。

大津市

九 近江戦国絵巻

明智光秀、琵琶湖岸に坂本城を築城

信長が比叡山延暦寺に攻め入った直後のこと、信長の家臣で、その手腕を高く評価されていた明智光秀（あけちみつひで）は滋賀郡（大津市北部）の支配を命ぜられました。光秀は坂本（大津市）の琵琶湖岸に坂本城❿を築城。城内に直接船を引き入れることができる構造の城だったという記録が残されています。

参考文献：12歳から学ぶ滋賀県の歴史 改訂版（滋賀県中学校教育研究会社会科部会編・サンライズ出版）

戦国ワンダーランド 滋賀・びわ湖
SENGOKU WONDERLAND Shiga Biwako

滋賀県観光キャンペーン「戦国ワンダーランド滋賀・びわ湖」

下の巻 近江戦国絵巻

秀吉による天下統一そして、家康の時代へ

長浜市

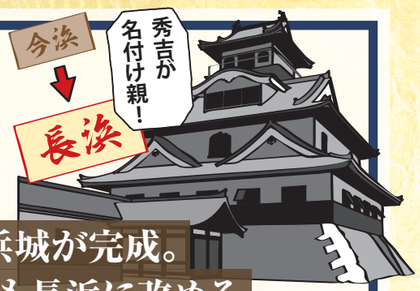
十 近江 戦国絵巻

メイド・イン・近江の鉄砲が活躍

近江の国友⑪（くにとも／長浜市）は、戦国時代に鉄砲（火縄銃）の一大産地でした。1560年に国友産の鉄砲が朝倉氏から出羽（山形県）の豪族に贈られた記録が残っています。戦における鉄砲の威力を証明することになった「長篠の戦い」の前年には、羽柴秀吉（はしばひでよし／後の豊臣秀吉）が国友鍛冶の藤二郎（とうじろう）を100石の家臣に。そして、1607年には国友が江戸幕府の御用鍛冶となりました。

長浜市

十一 近江 戦国絵巻

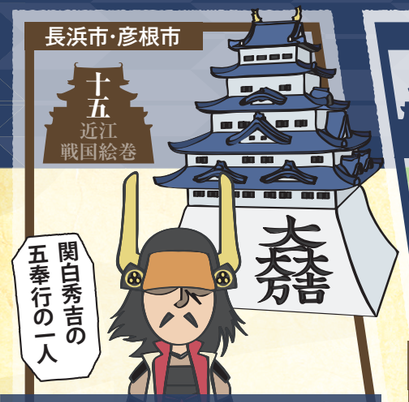


秀吉の長浜城が完成。地名も長浜に改める

浅井氏が滅亡すると木下藤吉郎（きのしたとうきちろう／後の豊臣秀吉）はその戦功により、浅井領だった湖北三郡を与えられ、小谷城（おだにじょう／長浜市）に入城。城持ち大名となったことを機に、名を羽柴秀吉と改めました。秀吉は坂田郡今浜（長浜市）に長浜城を築き、地名を「今浜」から「長浜」へと改名。現在、長浜の琵琶湖岸にそびえる長浜城⑫は、1983年に復元されたものです。

長浜市・彦根市

十五 近江 戦国絵巻



石田三成が佐和山城で湖北を支配

豊臣秀吉の参謀として、その政策を助けた石田三成は坂田郡石田村⑯（長浜市）の生まれです。秀吉の天下統一に大きく貢献した三成は、1595年、坂田郡と犬上郡の郡境にある佐和山城⑰（さわやまじょう／彦根市）を与えられ、湖北の統治を任されました。その後、関ケ原の戦いで徳川家康に敗れ、佐和山城も落城。井伊家（いいけ）の居城となる彦根城⑱（彦根市）完成に伴い、佐和山城は廃城となりました。

大津市

十六 近江 戦国絵巻

関ケ原にも影響を与えた大津の籠城戦

豊臣、徳川双方と友好関係にあった近江の大津城主・京極高次（きょうごくたかつぐ）は、関ケ原の戦い直前、大津城⑲（大津市）に籠城し、豊臣方の西軍と戦うことを決意します。大津城は西軍の大軍勢に包囲されましたが、結果的に関ケ原（岐阜県）での西軍側の軍勢を足止めすることに成功。関ケ原の戦いに勝利した東軍の徳川家康は、戦いの後、大津城で戦後処理を行いました。

彦根市

十七 近江 戦国絵巻

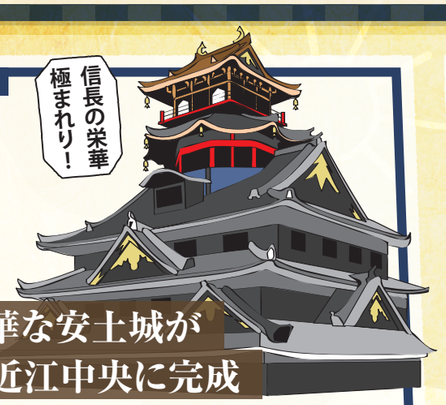
彦根城天守完成。井伊家が代々統治して、江戸幕府の要職にも

関ケ原の戦いで東軍の勝利に大きく貢献した井伊直政（いいなおまさ）は石田三成の居城だった佐和山城（彦根市）を与えられました。その後、井伊家は明治維新まで代々彦根藩主を務め、大老など江戸幕府の要職にも就きます。佐和山城に代わる居城となった彦根城（彦根市）は1606年に天守が完成。今も残る天守は国宝に指定されています。

年	出来事
1575年	十 長篠の戦いで織田・徳川連合軍が武田軍を破る
1579年	十一 安土城が完成
1580年	織田信長と石山本願寺との戦いが終結
1582年	十二 本能寺の変
1583年	十三 賤ヶ岳の戦い
1586年	十四 豊臣秀吉が太政大臣になる
1588年	豊臣秀吉が刀狩を行う
1590年	豊臣秀吉が全国を統一する
1592年	十五 文禄の役。最初の朝鮮出兵
1597年	慶長の役。二度目の朝鮮出兵
1598年	豊臣秀吉死亡
1600年	十六 関ケ原の戦い
1603年	徳川家康が征夷大将軍に就任。江戸幕府が開かれる
1614年	十七 大坂冬の陣
1615年	十八 大坂夏の陣。豊臣家滅亡

近江八幡市

十二 近江 戦国絵巻



絢爛豪華な安土城が近江中央に完成

長篠の戦いで武田勝頼（たけだかつより）を破った織田信長はその翌年、1576年に蒲生（がもう）郡の安土山（あづちやま／近江八幡市）に安土城⑬を築きました。1579年に完成した天主は、金で覆われた7階建て。それまで寺院でしか用いられなかった瓦をふかせるなど、画期的な城でした。城の周辺に城下町をつくり、家臣を住まわせ、天下統一への拠点としました。

大津市・長浜市

十三 近江 戦国絵巻

「敵は本能寺にあり」光秀の謀反と秀吉の台頭

本能寺の変で信長を倒した明智光秀（あけちみつひで）でしたが、中国地方への出陣からとんぼ返りした羽柴秀吉に敗れ、近江へ逃げる途中に命を落とします。光秀の居城だった坂本城（大津市）には火が放たれました。その後、信長の後継を秀吉と柴田勝家（しばたかついえ）が争うことになり、賤ヶ岳⑭（しずがたけ／長浜市）周辺で両軍は対峙。戦は秀吉の勝利に終わり、戦国の世は信長から秀吉の時代となります。

日野町

十四 近江 戦国絵巻

近江生まれの蒲生氏郷（がもううじさと）、40万石の大名へ

近江ゆかりの戦国大名の一人・蒲生氏郷は茶人やキリシタン大名としても知られています。彼は、蒲生郡日野⑮（ひの／日野町）で生まれ、人質として織田信長のもとに送られました。本能寺の変後には、信長の妻子を安土城から日野へ避難させる活躍をみせ、その後、小牧（こまき）・長久手（ながくて）の戦いでも戦功をあげた氏郷は1584年に伊勢松が嶋（いせまつがしま／三重県）の城主に、次いで会津若松（あいづわかまつ／福島県）40万石の大大名へと出世しました。

高島市・日野町・長浜市・野洲市・甲賀市

十八 近江 戦国絵巻

戦国の世から江戸時代へ。近江に1～2万石の小藩が誕生

徳川家康によって江戸幕府が開かれ、大坂冬・夏の陣で豊臣家が滅亡すると、戦乱の世は終わり、江戸時代が始まります。近江では井伊氏の彦根藩のほか、分部（わけべ）氏の大溝藩（おおみぞ／高島市）、市橋氏の仁正寺藩（にしょうじ／日野町）、小堀氏（こぼり）の小室藩（こむろ／長浜市）、遠藤氏の三上藩（みかみ／野洲市）、加藤氏の水口藩（みなくち／甲賀市）といった1～2万石の小藩が次々と誕生しました。

戦国ワンダーランド 検索 https://sengoku.biwako-visitors.jp/

「戦国ワンダーランド」公式ホームページには、「近江の城50選」と「戦国の舞台近江を歩く」の情報も公開されています。

参考文献：12歳から学ぶ滋賀県の歴史 改訂版（滋賀県中学校教育研究会社会科部会編・サンライズ出版）